

安全データシート

ピンドロール

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: ピンドロール
CB番号	: CB3105373
CAS	: 13523-86-9
EINECS番号	: 236-867-9
同義語	: ピンドロール

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: β アドレナリン遮断剤、高血圧、不整脈の治療
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

環境に対する有害性はGHS改訂4版を使用

H24.1.31、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7版)を使用

健康に対する有害性

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(心血管系、神経系)

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(心血管系、神経系)

生殖毒性 区分2

急性毒性(経口) 区分3

2.2 注意書きも含むGHSラベル要素

絵表示

GHS07

注意喚起語

警告

危険有害性情報

H335 呼吸器への刺激のおそれ。

H319 強い眼刺激。

H315 皮膚刺激。

H302 飲み込むと有害。

注意書き

安全対策

P280 保護手袋 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P261 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレートの吸入を避けること。

応急措置

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P304 + P340 + P312 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

P302 + P352 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

P301 + P312 + P330 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

保管

P405 施錠して保管すること。

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式等)	: C ₁₄ H ₂₀ N ₂ O ₂
分子量	: 248.33 g/mol
CAS番号	: 13523-86-9
EC番号	: 236-867-9
化審法官報公示番号	: -
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ後はただちに水を飲ませること(多くても2杯) 医師に相談する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

適切な消火剤

水泡 二酸化炭素 (CO₂) 粉末

5.2 特有の危険有害性

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

可燃性。

窒素酸化物(NO_x)

炭素酸化物

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

ガス / 蒸気 / ミストを水スプレージェットで抑える (除去する)。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: ほこりを吸い込まないこと。触れないようにすること。十分な換気を確保する。危険なエリアから避難し、緊急時手

順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 乾燥剤で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。ほこりを生じないようにすること。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管条件

密閉のこと。乾燥。保管安定性推奨された保管温度2 - 8 °C

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみ適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:

www.kcl.de)

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: KCL 741 Dermatril® L

飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: KCL 741 Dermatril® L

身体保護

保護衣

呼吸用保護具

ほこりが生じた際に必要。

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387お

よび使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状 結晶性粉末(HSDB (2004))

色 白色ないし帯橙色(有機化合物辞典 (1985))

臭い わずかに特異臭(有機化合物辞典 (1985))

臭いのしきい(閾)値 データなし。

pH データなし。

データなし。

データなし。

データなし。

logP 1.75(Howard (1997))

氷酢酸に易溶、メタノールに微溶、無水エタノール、アセトンに難溶(有機化合物辞典 (1985))

水:7880 mg/L (25°C)(SRC Phys Prop (Access on Oct. 2011))

データなし。

データなし。

0.000000123mmHg(25°C)(Howard (1997))

データなし。

データなし。

データなし。

データなし。

データなし。

171-173°C(Merck (14th, 2006))

融点・凝固点

171-173°C(Merck (14th, 2006))

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし。

引火点

データなし。

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし。

燃焼性(固体、気体)

データなし。

燃焼又は爆発範囲

データなし。

蒸気圧

0.0000000123mmHg(25°C)(Howard (1997))

蒸気密度

データなし。

比重(相対密度)

データなし。

溶解度

氷酢酸に易溶、メタノールに微溶、無水エタノール、アセトンに難溶(有機化合物辞典 (1985))

水:7880 mg/L (25°C)(SRC Phys Prop (Access on Oct. 2011))

n-オクタノール/水分配係数

logP 1.75(Howard (1997))

自然発火温度

データなし。

分解温度

データなし。

粘度(粘性率)

データなし。

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

通常想定される。

可燃性有機物質及び製剤に概ね該当：微細に分散し、舞い上がった場合、粉じん爆発を起こす可能性が

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

情報なし

10.5 混触危険物質

強酸化剤

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値は263.3 mg/kg(雄)および269.6 mg/kg(雌)(RTECS (2010))である。GHS分類:区分3 ラットのLD50値は263.3 mg/kg(雄)および269.6 mg/kg(雌)(RTECS (2010):元文献 Niigata Igakkai Zasshi. Niigata Medical Journal: 84, 438, 1970)に基づき、元文献の記載を確認の上、区分3とした。

経皮

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

吸入:ガス

GHSの定義における固体である。GHS分類:分類対象外 GHSの定義における固体である。

吸入:蒸気

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

皮膚腐食性及び刺激性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

皮膚感作性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

生殖細胞変異原性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

発がん性

ラット及びマウスの2年間経口投与による発がん性試験で、本物質による腫瘍性病変、前腫瘍性病変、または非腫瘍性病変の発生は見られなかった(HSDB (2004))との記載があるが、それ以上の詳細は不明のため分類できない。GHS分類:分類できない データ不足。なお、ラット及びマウスの2年間経口投与による発がん性試験で、本物質による腫瘍性病変、前腫瘍性病変、または非腫瘍性病変の発生は見られなかった(HSDB (2004))との記載があるが、それ以上の詳細は不明のため「分類できない」とした。

生殖毒性

ラットの交配前から経口投与した生殖毒性試験において、親動物雄で死亡と体重増加抑制に加え、精巣萎縮あるいは精子形成の減少を伴う交尾の減少、親動物雌では交尾行動の低下が見られたその一方、仔では死亡率の増加および吸収率の増加が認められた(HSDB (2004))。また、妊娠ラットに経口投与した試験において、母動物の一般毒性の記載はないが、未熟児(10.8%)が観察されたほか、総死亡胎仔数の増加、生存胎仔数の減少傾向が認められた(RTECS (2010))。以上の報告に基づき区分2である。さらに、母乳中へ移行が報告されていることから、授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させる(医療用医薬品集 (2010))との記述により、追加区分:授乳に対するまたは授乳を介した影響とした。GHS分類:区分2、追加区分:授乳に対するまたは授乳を介した影響 ラットの交配前から経口投与した生殖毒性試験において、親動物雄で死亡と体重増加抑制に加え、精巣萎縮あるいは精子形成の減少を伴う交尾の減少、親動物雌では交尾行動の低下が見られたその一方、仔では死亡率の増加および吸収率の増加が認められた(HSDB (2004))。また、妊娠ラットに経口投与した試験において、母動物の一般毒性の記載はないが、未熟児(10.8%)が観察されたほか、総死亡胎仔数の増加、生存胎仔数の減少傾向が認められた(RTECS (2010): 元文献 Oyo Yakuri. Pharmacometr

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

本物質は交感神経β-受容体遮断作用を有し、医薬品として本態性高血圧症、狭心症、洞性頻脈に使用され、重大な副作用として、心不全の誘発・悪化、心胸比増大(1%未満)の記載がある(医療用医薬品集 (2010))。動物試験では、ラットの急性毒性試験(LD50: 263.3~269.6 mg/kg)における毒性症状として、自発運動抑制、運動失調、痙攣の記載(RTECS (2010))があることから区分1(心血管系、神経系)に相当する。本物質は交感神経β-受容体遮断作用を有し、医薬品として本態性高血圧症、狭心症、洞性頻脈に使用され、重大な副作用として、心不全の誘発・悪化、心胸比増大(1%未満)の記載がある(医療用医薬品集 (2010))。動物試験では、ラットの急性毒性試験(LD50: 263.3~269.6 mg/kg)における毒性症状として、自発運動抑制、運動失調、痙攣の記載(RTECS (2010):元文献 Niigata Igakkai Zasshi. Niigata Medical Journal: 84, 438, 1970)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

本物質は交感神経β-受容体遮断作用を有し、医薬品として本態性高血圧症、狭心症、洞性頻脈に反復使用され、重大な副作用として、心不全の誘発・悪化、心胸比増大(1%未満)が現れることがあり、重要な基本的注意として長期投与の場合は心機能検査を定期的に行う(医療用医薬品集 (2010))と記載されている。また、本物質を投与された患者の15~19%に、めまい、疲労、不眠が発生し、さらに、患者の4~10%に異夢、視力障害、感覚異常、脱力、神経過敏、不安が認められる(HSDB (2004))との記載から区分1(心血管系、神経系)に相当する。本物質は交感神経β-受容体遮断作用を有し、医薬品として本態性高血圧症、狭心症、洞性頻脈に反復使用され、重大な副作用として、心不全の誘発・悪化、心胸比増大(1%未満)が現れることがあり、重要な基本的注意として長期投与の場合は心機能検査を定期的に行う(医療用医薬品集 (2010))と記載されている。また、本物質を投与された患者の15~19%に、めまい、疲労、不眠が発生し、さらに、患者の4~10%に異夢、視力障害、感覚異常、脱力、神経過敏、不安が認められる(HSDB (2004))との記載に基づき区分1(心血管

吸引性呼吸器有害性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

データなし

12.2 残留性・分解性

データなし

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）:- IMDG（海上規制）:- IATA-DGR（航空規制）:-

14.2 国連輸送名

IATA-DGR（航空規制）: Not dangerous goods

IMDG（海上規制）: Not dangerous goods

ADR/RID（陸上規制）: 非危険物

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）:- IMDG（海上規制）:- IATA-DGR（航空規制）:-

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）:- IMDG（海上規制）:- IATA-DGR（航空規制）:-

14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）: 非該当

14.6 特別の安全対策

14.7 混触危険物質

国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。

詳細情報

強酸化剤

15. 適用法令

船舶安全法

毒物類・毒物

航空法

毒物類・毒物

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】 HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】 IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】 IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】 Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。